

昭和三十九年一月三十一日招集  
第一回市議會臨時會々議錄



館山市議会第一回臨時会之議録

昭和三十九年一月招集

二月三十一日(金曜日)

一、現在議員三十六名でその氏名次々通り、

一番 吉田勇治郎 二番 鈴木正一郎

三番 小柴 孝 四番 館石伝藏

五番 田中祿郎 六番 秋山六三郎

七番 田村源治郎 八番 望月照正

九番 安西益男 一〇番 辻田 実

一一番 石井 正 一二番 黒川佐太郎

一三番 菊井敏博 一四番 志村信作

一五番 小沢憲太郎 一六番 関 武夫

一七番 飯田義男 一八番 西村真次

一九番 藤田好治 二〇番 保科忠夫

二一番	江田徳太郎	二二番	君塚喜三
二三番	中村省吾	二四番	島野茂樹郎
二五番	萩富七郎	二六番	鈴木孝
二七番	嶋田繁	二八番	山田教宇
二九番	鈴木市蔵	三〇番	安藤竜吉
三一番	安天徳順	三二番	三沢節
三三番	高橋文治	三四番	山本昇
三五番	松本藤太郎	三六番	山口康
一、議事日程			

第一 昭和三十一年二月臨時出納検査立会議員の互選について

第二 議案第一号 館山高専学校工業課程の備品購入契約の締結について

第三 議案第二号 寄附の収受について

第四 議案第三号 館山高専学校併設工業科電気設備工事請負

契約の締結について

一 法律百三十一條による出席説明員

市長 本間 義

助役 小出 武男

総務課長 山口 実

建設課長 新井 重助

教育長 工藤 和平

庶務課長 干場 伊右衛門

一本議会の事務局局長補佐 書記及び取員

事務局長 高梨 清一

事務局長補佐 太田 博雄

書記 兵藤 恭一

取員 錦織 睦子

一 出席議員 三十三名

一次席議員 三名

四番 館石佐蔵 六番 秋山大三郎  
三番 高橋文治

午後 二時三十分 開議

議長(黒川佐太郎君)本日出席議員数 三十一名  
ニより昭和三十九年度第一回市議会臨時会を開  
会いたします。

本臨時会に本間市長、小出助役、山口課長、工藤教  
育長、干場課長、以上が出席を求めましたので中報  
告いたします。

会議録署名員の決定を行ないます。本臨時会の会  
議録署名員に五番議員 田中祿郎君、三番議員

員安藤亀吉君以上両名を指名いたします。

こゝに中異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって決定いたしました。

会期の決定を行ないます。

本臨時会の会期につき、議会議事協賛会より意見は本日一日であります。

おはかりいたします。会期を本日一日と定めますことにや  
異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よって会期  
は、本日一日と決定いたしました。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

こゝより市長、挨拶並びに説明を求めます。

(市長本間譲君登壇) (拍手)

市長(本間譲君)ごあいさつ申し上げます。

昭和三十九年の新春を迎え、また世紀のオリンピックが日本において開催される新春を迎え、館山市民とともに慶賀に存する次第でございます。

さて、本日臨時市議会を招集いたしまして、昨春議をわすらわします議案は、館山高校併設に伴います工業科の備品の購入契約と電気設備工事請負契約の締結にかかると、二件でございます。それは工事の進捗上、ぜひとも必要と存するものであります。

その他、館山高校P・T・Aより体育部室一棟及び国技場掲揚塔一基につきまして、寄附を申し込みが、あります。ところで、同校の発展と設備の充実をはかるために、効率的



に使用さ—ていただくために収納いた—たいと思う次第でござ  
います。

詳細につきま—ては、関係課長を—て説明させていただきます  
よう—くや、審議のほどをお願いい—たす次第でございます。  
議長(黒川佐太郎君) 日程第一、臨時出納検査立会議員  
の互選を議題といた—ます。おはかりいた—ます。

選挙の方法は前例になら—い、自治法百十八条の規定により  
指名推薦の方法にしたいと思—います。こ—れにや異議あり  
ませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) 中異議なしと認めます。よ—つて議長  
において指名することに決—まりました。  
こ—れより指名いた—します。

立会議員に—一番議員 石井正君、二番議員 藤

田好治君、二番議員、保科忠夫君、二三番議員、中村省吾君、以上四議員君を指名いたします。

おはやりいたします。

ただ今、議長において指名いたしました四議員君を二月実施の臨時出納検査の五全議員の当選人と定めますことに申異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)申異議なしと認めます。

よって決定いたしました。

ただ今、五全議員に当選されました四議員君が議場におられますので、本席より会議規則第三十二条第二項の規定による告知をいたします。

日程第二議案第一号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第一号

館山高等学校工業課程の備品購入契約

の締結について

。庶務課長（干場伊右エ門君）館山高校の工業科の実験室及び実習室に備え付けの実験台三十六台、それから作業台四台、器具戸棚十二個を館山木工株式会社、株式会社盛子工務店、有限会社、安田木工所、有限会社太田木工所、四業者を指名いたしまして、競争入札を行ないましたところ百九万千八百円をもちまして、館山木工株式会社に落れました。よって同社の専務取締役飯塚武一と購入契約を締結いたしたいと思います。なお、納入については二月十五日でございます。購入の予定価額は百二十四万七千円でございます。大体当初予算七百二十万円を計上いたしまして、備品の購入を計画したのでございますが、電気科二百二十三

万五千三百円、化学工業料が四百八十三万四千三百円、  
合わせまして七百十一万二千六百二十二円と大体予算  
通り、執行状況でございます。

議長（黒川佐太郎君）本案に対する御質疑ございませんか、  
なしと認めます。本案はこれにて質疑を打ち切り討論  
省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

議長（黒川佐太郎君）や異議なしと認めます。よって本案  
は原案通り可決されました。

日程第三 議案第二号を上程いたします。

（書記朗読）

議案第二号 寄付の收納について、

庶務課長（千場伊右衛門君）や説明申し上げます。館山高  
校のP.T.A会長から寄付申し込みがありまして、館

山高校には今まで体育部室がなかったりでございますが、その必要性は前から認められておりました。ところが今回PTAの総意によりまして、建築することになったのでございますが、部室十一自動車庫等に分れております。また国旗掲揚塔は現在国旗掲揚運動が盛り上がりきたりから、ちょうど昭和三十七年の五月にPTAの集いで、館山高校のPTAが表彰されました。その記念事業といえまして、館山高校の先生の設計によりまして、でき上ったものであります。体育部室の方は、百三十五万、国旗掲揚塔の方は十三万円を要しております。それぞれ申し込みを受理いたしまして生徒の体育向上に資するとともに国旗高揚の理念を高めるようにいたしたいと思ひます。よろしく御審議願ひます。

議長(里可佐太郎君) 本案に対する御質疑願ひます。

質疑なしと認めます。

本案はこれにて質疑を打ち切り討論省略原案通り可決するにや異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)や異議なしと認めます。よって本案は原案通り可決さいます。

日程第四、議案第三号を上程いたします。

(書記朗読)

議案第三号 館山高等学校併設工業科電気設備工事請負契約締結について。

建設課長(新井重助君)議案第三号についてや説明申し上げます。

館山高校の工業科併設に伴います家屋建築中でございすが、それに敷設いたします動力源、電灯の配

線工事でございます。

こゝに入れいたしますので、今月より二十八日株式会社引電社、庄司電気商会等三社を指名いたしまして、競争入れいたしまして、ところ、庄司電気が三百四十九万五千円でもって落れいたしまして。

本商会と契約しようというものでございます。

電気施設う概要でございますが、変電所を設けまして旧校舎の方に電灯を交換いたしまして、なお、工業科に参ります電力を変電所から配線させてあります。それに三十七年、三十八年で建てました校舎全体に電気が、この契約によつていきわたるわけでございます。

その他に動力設備が本年度はこの中に入つておりません。なお、その請負う残金がございますので、動力設備は随意契約によりまして施設いたしたいと考えております。

これによりまして全部の電線回路がここにでき上るのでございます。

三十九年度分につきましては、三十九年度家屋の建築に伴いましておつていきたい。このように考えてありまして三十七年三十八年の校舎に至ります。電気はこゝで全部完了というところでございます。

・三五番(松本藤太郎君)市立高等学校の工業科併設について多額の公費をさしておるわけでございますが、本案は電気設備の工事、さらには動力設備も次にやるのだ。こういう中説明がございまして、それにつきましては、確かに町村からの負担金が一千万ですが、一千何百万ですが、出ていくだけ。こういうことが約束しておつたわけでございますが、そういう負担がどの程度、今日本年度入つておるか、それをお聞かせ願いたいと思ひます。さらに



渠の教育長のお話によりますと、来年度は館山市立高等学校が渠に移管を前提として一千万余の補助金を出す。こういうことが新聞紙上に報道されておりますが、この真偽のほどを知らせ願いたいと思います。

庶務課長(干場伊右エ門君) 館山市立高等学校の寄付の關係について申し上げます。

千四百万円がきまりまして、その千四百万円を五カ年にわたつて半額納付するようになっておりまして、三十八年度は、二百八十万円、百円、これだけを安房郡の町村から入るようになっております。

現在入ったものは、審判所が二十四万七千円、江見町十二万四千円、天津小湊町が七万四千円、長狭町が十萬八千円、収納状況は以上のような状態でございます。他の町村においては、予算に計上してありますので、三月まで

には金部入る見込みでございます。

・助役(小出武男君) 次の点でございますが、館山高校が果  
互に移管になる時期に過ぎましては、まだ、はつきりいたし  
せん。館山市程度の町では相当過重な工業高等学校  
としかえるほどの過重さを果も認めまして、できるだけ補  
助しようじゃないかということを知事もいわれまいなし。  
教育委員会でも考えておるわけでございまして、先般私  
参りました、八年度は実はほとんど市費で支出済で  
ございますが、本年度もその中に入れて補助をもらい  
たいということで一応千五百万円をお願いをしてお参ら  
れたのでございますが、ここで発表するのはいかかと思いま  
すが、その後、総務部長の査定には、千二百万円が査定  
されたという情報が入っております。

なお、来年度におきましてもそれ位う程度をお願いはい

たらない。かように考えておるわけでございます。

○三五番(松本藤太郎君)町村の負担ですが、千四百万円を五ヶ年、年二百八十万二千を各町村にそれぞれという基準で割り当てたか知りませんが、割り当ててあるわけですから、これも今伺いますと、四つ町から一か入っていない。

まだ、たくさん残っておると思います。金額にいても、四つ町村では、わずかのものです。金額にほど遠い。二月、三月と残り少なくなっておりますので、やはり法律的にどうこうというふうではないので、積極的に協力を呼びかけなければならぬと思いますので、さらに一つこの点の未納がないように努力願いたいと思います。

○二五番(萩生田七郎君)ただ今松本議員の質問で了解いたしまして、さらに質問申し上げたいことは、果が館山高校の実態心というものを、例えば、生徒の分布

状態から見ましても、果立の性格をおびてゐる。

果立でもって揮発すべき諸条件が具備されてゐるにもかかわらず、現在市でやつてゐるうで、あるから市の経済負担をカバーする意味において、そうした補助施策を取る。まことにありがたいと思ひますが、我々も要望するところは、この一に過重ないろいろな設備、その他によつて今後とも相当の市の経済負担過重化を来すと思ふのであります。

ただ今助役さんの中説明では、本年年度の追加でもつて千二百万円程度の助成をする。来年度もその程度の助成をしよう。こういうことに承つたのであります。が、我々も希望するところは、速やかに果立に移管するといふことであつて、その前提として、こういう経済措置を行なつてゐると思ひます。そういう点につきまして、市長

さん並びに助役さん方は、果の真意と申しますか、館山校の内容と云うものを解剖して、そうしてその経済負担を町村の負担にすべき経済負担を市が負って地方教育の振興に努力しておると云う実態、これにかんがみて大体いつ頃果立に移行するや意思があるか。その過程において、果がどの程度の継続した助成施策を実行して行くかどうか。その二点について見通しを承りたいと思います。

市長(本間譲君) 果立移管はいつなるかというや質問でございしますが、大体この間も知事がきまいていろいろ話したのですが、我々としては、四十年には、なるように運動しておるわけでございます。それから工業課程併設については、果立移管ということをおぼていないらしいです。ですから、あうときは工業を誘致する云うふうな

方が早道ではなかつたかと思ひます。ですから果でも  
たいして重く考えないような面があるわけでございます。  
しかしいろいろ陳情——まして、実情がわかりましたから、  
知事も学校をよく見まして教育委員会の方は、あるけ  
いども四十手頃ではないかということもいつておりますが、  
なるべく早くやつてもらいたいというふうになっております。  
助成につきましても、来年もこちらから運動してやつて  
いただきたいと思います。

議長(黒川佐太郎君) 本案はこゝにて質疑を打ち切り討  
論省略原案通り可決するにや、異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君) や、異議なしと認めます。よつて本案  
は原案通り可決さうな。

以上をもちまして告示さうな。全議案を議したいし

まゐりました。よつて本臨時会を肉会いいたします。

午後 二時五十分 開会

本日の全議に付いた事件

一 議事日程に同じ。

出席議員

吉田 勇治郎 鈴木 正一郎

小 柴 孝 田 中 祿 郎

田 村 源治郎 望 月 照 正

安 西 益 男 辻 田 実

石 井 正 黒 川 佐 太 郎

菊 井 敏 博 志 村 信 作

小 沢 憲 太 郎 関 武 夫

飯田義男

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

兼生田七郎

鈴木孝

嶋田繁

山田教宇

鈴木市藏

安藤竜吉

安沢徳順

三沢節

山本昇

松本藤太郎

山口廣

昭和三十一年一月三十一日



右全議の次第を録しここに署名す。

館山市議会議長 黒川 武吉

同 署名議員 田中 祿郎

同

安部 忠吉



